

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472700523
法人名	株式会社 スマイル
事業所名	スマイル住まいる三浦
訪問調査日	平成19年11月15日
評価確定日	平成20年1月7日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年11月23日

【評価実施概要】

事業所番号	第1472700523号
法人名	スマイル株式会社
事業所名	スマイル住まいる三浦
所在地	三浦市初声町下宮田字仲田601-7 (電話) 046-887-4660

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成20年1月7日

【情報提供票より】(平成19年10月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	11	常勤	10人	非常勤	1人	常勤換算	5 人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄筋)造り
	3階建ての (2)階 ~ (3)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 360,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 平成19年10月18日 現在

利用者人数	10 名	男性	3 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大畑医院(内科) 石井歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

空気の澄んだ三浦半島の駅から徒歩2分のところに位置し、外観、内部とも清潔なホームです。中廊下が広く、柱による死角が入居者や家族の安らぎの場になっています。
お菓子の袋も自分で開けるよう、ハサミなどはあえて隠さず信頼関係が結ばれた上でケアを行っています。法人で1泊旅行を企画して、希望者は参加して楽しむなど、法人の応援もあります。利用者本人が経営していた店に職員と出向いたり、お土産を持って友だちの家に行くなどの希望をかなえる個別対応がされています。管理者が利用者にスキンシップをしている場面など、ほほえましさを感じました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で職員の休憩場所の確保が改善項目に挙がっていました。今回の調査時には改善されて、事務所に、カーテンで区切りいすを置いて一人になれる空間が確保されていました。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、新ユニットを開設したばかりの忙しさも重なり管理者のみで作成しました。この結果を元に、職員全体で意識の高めあいをしたいと管理者は準備を進めています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2回行いました。家族、職員、民生委員の協力を得て行い内容は行政に報告しています。その際に、まず入居者の家族を集めて、認知症やグループホームのケアについての勉強会をしたいという意見がでて、早速実行しています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族からの苦情はありませんが、面会時の会話から意見・要望を汲み取るようにしています。仕事の関係で夜中にしか訪問できない家族の訪問にも応じています。自由に家族と利用者で話をしたいという希望には、居室に電話を引くことでいつでも通話できるようにしました。廊下には利用者の写真集が置いてあり、家族に毎日の様子が見えるようになっていきます。毎月1度、利用者の様子は個別記録をコピーして送っています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム周辺は新しく建ったマンションなどが多く、自治会そのものも新しく、今のところ自治会には参加していません。美容院などはあえて街にでていき、道端の花壇の花植えに参加させてもらうなど積極的に取り組んでいます。学校の演奏会に出向いたり、地元の野菜売り場の人との交流など、常に心がけています。近所の方からお花の差し入れもあります。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在のグループホームの理念は、開設当時にできたものである。開設2年を経て、管理者はこの現場に即した意見を職員側から出してもらい、新規のものをつくりなおしたい意向である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに印刷されており、職員各自にも渡してある。入居時には利用者、家族にも説明している。理念を唱和することはないが、管理者は折に触れて理念に沿った話、ケアをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新しく開発した地域で、自治会には加入していないが、隣のマンションとの交流はある。地域の道路にお花を植える仲間に入れてもらったり、地元の人が野菜を売る場所での交流がある。地域の商店から化粧品のデモンstrーションにきてもらったり、美容院もあえて外に行っている。地元の人にお花をいただいたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者が作成した。この結果をきっかけにして職員全員の会議を行い、意識を高めていく。昨年の改善事項であった職員の休憩所は設置された。今年の結果は、家族にも知らせる意向である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2回実施した。出席者は家族、職員、民生委員で約10数名の出席。行政からの出席者はなく、結果だけを報告した。そこでの意見を生かして、家族を対象にした認知症の勉強会を行った。今回の評価結果、災害時の応援は、次回取り上げる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に入居相談を行政と絡んで行っている。三浦市のグループホーム連絡協議会があり、その役員が市との連絡を取っており、間接的には当ホームも連携している。空き情報は市に送り、待機者への連絡は市もかかわってくれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	詳細に記した個人記録があり、月末にはコピーして家族に郵送している。買い物は事前に家族に相談しており、レシートと小遣い帳の写しは月に1度郵送している。家族が来たときにみられるよう、日々の写真集を中廊下においている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情という形では出てこないが、職員と家族との普段の会話の中から汲み取れるものは、すくいあげている。今のところは、外出時には「この洋服を着せて」という程度の希望である。家族の都合で夜間しかこられない人がいるが、夜間訪問も応じている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	社内の異動で管理者が1度交代した。社員は1名辞めたが、特に利用者がダメージをうけたということはない。現在新ユニットを開設したばかりで、旧ユニット職員の応援も頼むが、利用者とのコミュニケーションは取れている。管理者は職員配置に心を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用は現地で管理者も関わり行っている。就職希望者には体験を1日行ってもらい、本人も施設も納得の上での雇用である。法人で2ヶ月に1度入社時研修がある。新人はマンツーマンで10日ほど指導を受ける。外部研修の参加も応援していて、実際に職員が出席している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三浦市にグループホーム連絡協議会があり、お互いのホームを見学したり、研修をしている。地域密着型施設であるが、三浦市に転居してきたお年よりも受け入れることを、活動を通して行政も吸い上げてくれた。困ったときや悩みなど、連絡協議会の仲間に相談している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとりに接する時間を大事にし、利用者との関係性を大事にしている。当日、管理者と利用者のスキップを垣間見た。帰宅願望は当たり前の要求と認識し、少しずつなじむのを見守る。入居日には家族が泊まる例もある。月に1度家に外泊する事もあるが、「ここが私のいる場所」と戻ってくる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からおせち料理の黒豆の煮方を教わったり、お花を活けてもらったりしている。利用者の中で海外で過ごした人、絵画が上手な人、写真がプロ並みの人というが、素晴らしい人生を生きてきた先輩として、尊敬している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お土産を持って家族に会いに行きたい、友だちのところをお土産を持ってたずねたいなどの希望はかなえている。飲食店を切り盛りしていた利用者のお店に職員と行くこともある。また、お孫さんの演奏会にホーム内の他の人も誘い参加したいとの希望もかなえている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議は月に2回行われている。全職員に紙を渡し「私(利用者)が望むこと」のメモを出してもらい、それを元にケアマネジャーがプランを作成する。家族にも説明し、意見をもらい、反映させている。声かけと介助で不安を取り除く、繰り返しの質問には安心するまで返事をして、などきめ細かいプランになっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	規定どおりに見直ししている。状態変化の場合は、随時行っている。当ホームでの「在宅状況報告」は、2週間に1度詳細に記載され、素晴らしい内容である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院は地域の中に溶け込むよう、職員が送迎のみして、利用者とお店の人のふれあいタイムにしている。同法人運営の階下のデイサービスへは、時に遊ばせたり体操をしに行く。グループホーム入居希望者には体験入居を食事代のみで提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療(内科、皮膚科、整形外科)は毎週来るが、希望者のみ受診している。今までのかかりつけ医を希望する人には、家族の通院援助が原則だが、できないときには職員が付き添う。精神科医の訪問は月に2回あり、メールのやり取りで常時利用者の様子を確認しあっている。訪問歯科とも連携している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、及び終末期の対応については、医療にかかわらない範囲で医師と相談してできるだけ可能なことをすること、従って最後まで対応が出来ないこと、緊急の時には救急車を呼ぶことを、利用者の家族には文書化してはいるが、口頭であらかじめ説明している。事例はまだない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前での介護やトイレの誘導など、利用者の尊厳を損なうような行為は厳に慎んで注意している。また、利用者に他の利用者の情報を入れないようにしたり、職員が離籍するときには利用者の記録をしまう等個人情報漏れないよう配慮をしている		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを守りながらも、食事の時間は大体きまっている。1時間かけて本人の好きなように食べる人もいるが、その人のリズムということで尊重している。お酒は希望通りにして楽しんでもらっている。窓から見える森まで行ってみたいという希望に職員も付き合い、気持ちを共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	マグロの刺身や海鮮丼なども出している。たまには炭酸ジュースや、カップラーメンを楽しんだりもする。よほど忙しい時は配食サービスを頼るが、普段は職員が献立を立てて、利用者と買い物に行く。調理や、後片付けのお手伝いもしてくれる。利用者を使い勝手のよい調理台が設計されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間帯を除き、毎日希望する時間に入浴できるようにしている。入浴を拒む利用者には、「お医者さんからお尻の薬が出ているよ」「家族から頼まれているから」という言葉掛けで入浴を促し、それによって協力してくれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、掃き掃除、カーテンを閉める、戸締り等役割意識を持って取り組んでもらっている。英語の絵本作りや朗読、写真を撮ってもらうなど利用者の得意分野で出来るだけ力を発揮する生活場面を作っている。花の水遣りや、植木鉢の土入れもベランダの空気を吸いながら楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課にしており、その日の状況で散歩コースの長短を決めている。重度の利用者は車椅子でいく。外は疲れるという人には屋上のテラスやベランダへ案内する。買い物は車で出かけて、スーパーの中を歩く。ドライブや、季節ごとの花見なども楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロアごとの入口(玄関)扉は開いているがチャイムがついている。部屋の扉はロックがついているもの内側からだけ施錠できるようになっている。入口扉のすぐ前にはエレベーターがあり、帰宅願望の強い利用者が操作をして下にいくこともあるが、「家族が来るよ」「外は暗いから」というような言葉掛けで、中へ誘導している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルは整備されているものの、それに沿った形での避難訓練等は行われていない。また緊急の場合に地域へ応援を求めるための地域への働きかけも、これからである。		12月に避難訓練等を予定していますが、消防署の協力を得て避難訓練等を行うなど実効性のある訓練を期待します。また地域との協力体制を速やかに構築されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間はテレビを消して出来るだけ会話をしながら、食欲があるかどうかの健康状態を判断して、食欲がない利用者には励ましながら食事を勧めている。また、食事量・水分量は、時間ごとの詳細なチェック表を用いて、その日の状態を克明に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂・廊下には、利用者や関係者の絵画作品、季節の花等が飾ってある。廊下の柱の影には利用者が一人で過ごすことが出来るコーナーも設けられており、テーブルには家族が楽しめる利用者の写真集が置いてある。廊下の端の大きなガラス窓に面した部分には、椅子が2～3脚置いてあり、そこから京急の電車が眺められるようになっており、利用者の憩いの場所になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、利用者の今までの生活空間と出来るだけ変わらないような雰囲気を出せるように相談をしていて、持ち込み品やベッドの位置まで打ち合わせをしている。持ち込み品に関しては、特に制限をしていない。各自の安住の場になっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる三浦
(ユニット名)	ユニット うみう
所在地 (県・市町村名)	神奈川県三浦市
記入者名 (管理者)	駒木根 純子
記入日	平成 19 年 10 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほか、グループホーム独自の理念がある 具体的に分かり易い言葉に代え、より達成するための方法を 適時検討している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示をしている。 日常の会議やスタッフ間のやりとりの中で、この理念を意識した 考えができるような会話を管理者が心がけている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに明記し、地域の見学会などでもご説明させていただいている。ご利用者、ご家族には具体的な例を挙げ、 ご説明させていただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	新人オリエンテーション時にも、指導を実施している 散歩時などの挨拶は欠かさずにおこなっている。庭のお花を いただいたり、お孫さんの着物姿を見せに立ち寄りいただく こともある		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校や地域行事の情報を集め、有効な支援と考えた場合は 参加している。草取りボランティアや、学校の演奏会など参 加している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に介護現場見学会の場を提供したり、講習会をおこなっている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等で、目的や理解、結果を受けてのとりくみを話す機会を設けている。前回の評価時より、一歩進んだ改善がなされている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回により内容を代え実施している。1回目の会議にて、地域向けの勉強会の希望等、地域に根付いたサービスへの参考ご意見をいただきました。2回目にはその一環として認知症に関する勉強会を開催。地域からの見学や講習会の要請には積極的に受け入れている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居時のケース相談をしている。その他三浦市の担当の方にはいつでも相談できる体制にある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学んでいる。今までケースはないが、必要に応じてさらに情報収集や個別の相談に応じる体制でいる		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、常に注意を払い防止を第一に考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	おこなっている。十分に理解されるよう努めて説明している。不安が改善するまで、何度でも説明や相談対応をおこなっている		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見や不満、苦情はその場で、検討し職員に周知している。直接的に言いにくいことなどの配慮として、日常の会話などから、利用者が言いたいことを汲み取るよう努めている		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月末に、生活の様子(記録のコピー)やお小遣いの明細を送付している。その他、健康状態など個別必要に応じて報告させていただいている		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見、不満、苦情は内容に応じ、報告書などの書面に事実を明記している。対策を検討しそれも書面に残すシステムになっている。直接的に言いにくいことなどの配慮として、日常の会話などから、ご家族が言いたいことを汲み取るよう努めている		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティングなどで、意見を集め、必要に応じ反映させている		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	緊急時や行事など必要時には職員の調整ができています。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動は必要最小限に抑えている。やむを得ない場合は、ダメージを防ぐため、ご説明したり、支援を引き継ぐなど、個別に対応している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修情報を回覧し、研修参加の機会を設けている入社時の研修他、法人内の他サービスや事業所への研修なども適時行っている。個別に課題として、取り組んでもらうこともしている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三浦市のグループホーム連絡協議会に所属している。地域の同業者に相談できる状態にある		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みなどの勤務希望を可能な範囲でとりいれ、心身の健康を維持できるよう努めている。ロッカー室を工夫して、休憩場所の確保をした		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務形態に関わらず、全職員がそれぞれの可能な能力のなかで高い意識や向上心を持って働けるように考え努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば何度でも、連絡や訪問して聴く機会をつくっている どのような身体レベルであっても、必ずご本人に不安なことを確認している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば何度でも、連絡や訪問して聴く機会をつくっている 焦らずに、よく検討していただけるようにしている。 聴く機会と、考える時間をつくるよう努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら、まず支援計画の概要を考える。入居判定会議にてGHに入居いただいた場合の課題を話し合っている。その方にとってここでの生活がベストではないと考えられる場合には、他のサービスも含めた提案もさせていただく。あくまでもご本人にとってどうか、という判断の仕方をさせていただいている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入所をおこなって、不安をなくし徐々になじめるようにしている。ご家族と充分話して、ご本人の不安がないようにケースによっては、入居までの期間のアドバイス等もさせていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	努めている。入居者同士の関係やホーム内での役割をもつことを大切にしている。そういったことを、支援のサービス内容にとりいれている。ご本人から学んでいる、力になってもらっていることを、直接伝えていく		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、情報をいただいたり、スタッフや入居者と一緒に過ごす時間を大切にしている。そのご家族の状況に応じた関係を築いている ご家族は支援をするチームの大切な一員であると考えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	理解に努めている。それぞれの家族形態にあったベストな関係が継続できるよう努めている。支援計画におり込んであるケースもある		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ご自分で経営されていた飲食店に食事に行ったり、友人のいる場所に行ったり、これまでの生活暦や馴染みを中心にした支援計画にもとづき活動している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状況に応じ、スタッフと個別に対応したり、悩みをきいたり、時には入居者同士の関係をそっと見守るよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要であればきちんと関わっていく方針。契約が終了しても地域の方として、これまでの関わりを活かし、おつきあいできるような努める意向がある		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にまず聴いている。モニタリング、ケア会議の実施。その際に職員一人一人が入居者の立場になり「私が望んでいること」と考え検討するようにしている。書面にもこの記載がされている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント以外にも、気付いたことは都度、ご家族に確認して把握できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のモニタリングチェック表をつけている それをもとにケア会議をおこなって、変化や総合的な把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族はもちろんのこと、必要に応じ、医療関係者、用具の専門家、グループホーム以外の介護関係者等の意見を十分に聞き参考に介護計画書を作成している。計画書のサービス内容にこれら関係者との連携という項目も入っている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成している。変化に応じて見直しを実施している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングチェック表や、個別の生活記録に1日の様子を細かく記入し計画作成に活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービス外で、体験入所のサービス(食事代はいただいています)を実施している。面会時間の制限はありません。ご家族にお泊りいただくこともできます。(ご本人様と一緒に。食事代はいただきます)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	意向や必要性があれば、いつでも協力して支援する方針です。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在必要なケースがほとんどないと思うが、必要時には相談できるケアマネジャーや他サービスの情報がある		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	意向、必要性があれば対応する方針です		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時はご家族がかかりつけ医からきちんと、説明を受けられる場を設けている。かかりつけ医とは、メールなどのやりとりで、関係が築かれている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>メンタルクリニックからの定期往診があり、必要時にいつでも相談できるシステムになっている</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>定期往診により、ご本人やスタッフともなじみの関係を築けている</p> <p>また、事業所内に併設されているデイサービスの看護職員との連携もとれている。必要時には、可能な範囲で対応させていただいている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院の際、必要時には介護サマリーを記入します。個人情報に留意しながら状況に応じ、早期退院、その後の対応について関係者と相談します。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合には、まずご家族に今後の医療や生活の意向を聞いている。その意向を医療機関に伝えている。リスク等の説明も充分説明した上でご本人、家族の納得を得られるよう対応をしている。スタッフにはその経緯と方針を周知している。その時の状況に合った対応をさせていただく旨の説明を入所時にしている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>必要時にはかかりつけ医に相談、カンファレンス参加や意見を求めている。ご本人、ご家族の意向を十分汲み取りつつ、誠実に責任ある対応ができるよう、今できること、できないことを明確にしている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>十分に説明をする。介護サマリーを作成します。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録を目につく場所に置いておかない。他の入居者やご家族の情報を必要以上に伝えないなどの配慮をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個別計画に、自分の思いが訴えられることを目標の1つとし、傾聴や筆談、ご本人の世界観を大切にすることなどのサービス内容を取りいれているケースが多々ある。自己決定の表出ができる方には、直接確認している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の会話などから、ちょっとした外出をしたり、自室での食事なども希望があれば行っている。生活のリズムを保つようにはしているが、食事の仕方や時間の制限もしていない</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望がある方には、美容院の送迎や付添いをおこなっている。可能なかぎり、美容院には外に出かけていくようにしている。外出時に服を選んだり、化粧をすることを楽しんでいただけるようにしている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>負担にならぬよう注意しながら、それぞれその時にできる範囲でして頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>希望がある時は晩酌もしている。おやつを自分で購入している方もいる。体調等に問題がなければ、特に制限はしていない</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて、パターンや尿、便意サインを把握し、気持ちよく排泄できるようにしている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日湯を沸かし希望に応じ入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握し、日中の活動量の調整や昼寝などで夜間気持ちよく眠れるよう努めている。時には、夜起きて読書されたり自由に過ごされる方もいられます		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	英語の絵本をつくり朗読してもらい、読み物をそろえたり、日課をつくったり写真を撮ってもらい、宛名書きを依頼する、花の手入れなどその方の得意分野を中心にやることを提供している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は自己管理している。お金を持っていて安心なかたはご家族了解のもと、お財布に入れている。買物時のレジ清算をしていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課(状況にもよるが)にしている 歩行が厳しいかたはベランダや屋上にでたり、室内でも日の当たる場所や景色の良い場所へ移動する		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	主に行事として、様々な場所へ外出している。個別の買物や用足しに他の入居者と同行して外出の機会をつくっている。会社主体でのケア付き旅行に参加されるかたもいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をいつでも利用していただいている。TV電話(スカイプ)でアメリカにいるお孫さんと定期的にお話されるかたもいる。自室に電話回線をひき、ご家族と直接電話することもできます		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お部屋以外に、面会できるスペースがある。心地よく過ごせるようスタッフも配慮している。他の入居者と関わったり、又は水入らずの時間も大切にと考えている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない、という意識が浸透している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないもの、という意識が常識として浸透している		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	そっと見守り、所在の把握をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物を置かないのではなく、置くためにどうしたらよいか考えている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応のマニュアルがある。法人でリスクマネジメントの体制が整っており実施している。報告、対策を事業所、法人で共有して事故防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	伝達の形で行っている。日常的に会話で取り上げるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			まず入居者全員参加での防災訓練をおこないたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人らしく、いきいきと暮らす。そこにはリスクもあることなど、予測されるリスクについては、適時ご家族に説明している。入居相談時に必ず説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の記録、申し送りを密におこなっている。スタッフの視点のポイントがずれないように努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の仕分けや、往診の立会いに関わっている変更なども全員に伝わるシステムとなっているので、変化・注意すべき点も同時に周知される		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	まず飲食物で便秘が予防できるよう工夫している。兆候がでた時は密に申し送り、水分摂取などで調整できるようにしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援している。訪問歯科による口腔ケアや治療をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使っているが、有する能力によりチェックの度合いを変え対応している。変化には速やかに気づくよう努めている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある 医師等の指示も仰いでいる。時期的なものや、流行などは、情報を集め予防に努めている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	できている。賞味期限の徹底。流し調理器具の洗浄もその都度毎日管理している。消毒、手洗いの徹底。入居者にもご理解いただいている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木を植えている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、手作りの作品、入居者が選んだものなどを置くようにしている。光、音量、匂いは与える影響が大きいと考え、その都度配慮している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、椅子などのスペースがある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	なるべくこれまでの生活空間と同じ状況になるよう、持ち込み 品やベッドの位置などもご家族に相談している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	あえて非常階段を使って、下肢や感覚の訓練ができるように することもある。手すりや車椅子対応可能なトイレがある		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	見守りや一緒に行う家事などしている。帰宅願望などは、家 に帰りたい・・・という当たり前の意思を表現できることとしてと らえている。混乱の原因を追究している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダで園芸している。ちょっとした野菜も収穫し、調理に 取り入れている。屋上は、洗濯物を干したり、お茶を飲んだ り、花火をみたり気分転換に利用している		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所から2年になります。皆様のお力をいただきながら、じょじょに スマイル住まいる三浦 らしいスタイルができてきました。多少のリスクはあっても、いつまでもその方らしく、もてる力を発揮し、いきいきと、幸せに過ごされることを最優先に考え支援しています。駅から近く、新しい建物も自慢の一つですが、大切なのはやはり 人と人 ではないでしょうか？ 私（記入者）はここが好きです。機会がありましたら、ぜひ一度お立ちよりください。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	スマイル住まいる三浦
(ユニット名)	ユニット やまゆり
所在地 (県・市町村名)	神奈川県三浦市
記入者名 (管理者)	駒木根 純子
記入日	平成 19 年 10 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念のほか、グループホーム独自の理念がある 具体的に分かり易い言葉に代え、より達成するための方法を 適時検討している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示をしている。 日常の会議やスタッフ間のやりとりの中で、この理念を意識した 考えができるような会話を管理者が心がけている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに明記し、地域の見学会などでもご説明させていただいている。ご利用者、ご家族には具体的な例を挙げ、 ご説明させていただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	新人オリエンテーション時にも、指導を実施している 散歩時などの挨拶は欠かさずにおこなっている。庭のお花を いただいたり、お孫さんの着物姿を見せに立ち寄りいただく こともある		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校や地域行事の情報を集め、有効な支援と考えた場合は 参加している。草取りボランティアや、学校の演奏会など参 加している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に介護現場見学会の場を提供したり、講習会をおこなっている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等で、目的や理解、結果を受けてのとりくみを話す機会を設けている。前回の評価時より、一歩進んだ改善がなされている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回により内容を代え実施している。1回目の会議にて、地域向けの勉強会の希望等、地域に根付いたサービスへの参考ご意見をいただきました。2回目にはその一環として認知症に関する勉強会を開催。地域からの見学や講習会の要請には積極的に受け入れている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居時のケース相談をしている。その他三浦市の担当の方にはいつでも相談できる体制にある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学んでいる。今までケースはないが、必要に応じてさらに情報収集や個別の相談に応じる体制でいる		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、常に注意を払い防止を第一に考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>おこなっている。十分に理解されるよう努めて説明している。不安が改善するまで、何度でも説明や相談対応をおこなっている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や不満、苦情はその場で、検討し職員に周知している。直接的に言いにくいことなどの配慮として、日常の会話などから、利用者が言いたいことを汲み取るよう努めている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に、生活の様子(記録のコピー)やお小遣いの明細を送付している。その他、健康状態など個別必要に応じて報告させていただいている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、不満、苦情は内容に応じ、報告書などの書面に事実を明記している。対策を検討しそれも書面に残すシステムになっている。直接的に言いにくいことなどの配慮として、日常の会話などから、ご家族が言いたいことを汲み取るよう努めている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングなどで、意見を集め、必要に応じ反映させている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時や行事など必要時には職員の調整ができています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は必要最小限に抑えている。やむを得ない場合は、ダメージを防ぐため、ご説明したり、支援を引き継ぐなど、個別に対応している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修情報を回覧し、研修参加の機会を設けている入社時の研修他、法人内の他サービスや事業所への研修なども適時行っている。個別に課題として、取り組んでもらうこともしている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三浦市のグループホーム連絡協議会に所属している。地域の同業者に相談できる状態にある		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休みなどの勤務希望を可能な範囲でとりいれ、心身の健康を維持できるよう努めている。ロッカー室を工夫して、休憩場所の確保をした		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務形態に関わらず、全職員がそれぞれの可能な能力のなかで高い意識や向上心を持って働けるように考え努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば何度でも、連絡や訪問して聴く機会をつくっている どのような身体レベルであっても、必ずご本人に不安なことを確認している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必要であれば何度でも、連絡や訪問して聴く機会をつくっている 焦らずに、よく検討していただけるようにしている。 聴く機会と、考える時間をつくるよう努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら、まず支援計画の概要を考える。入居判定会議にてGHに入居いただいた場合の課題を話し合っている。その方にとってここでの生活がベストではないと考えられる場合には、他のサービスも含めた提案もさせていただく。あくまでもご本人にとってどうか、という判断の仕方をさせていただいている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入所をおこなって、不安をなくし徐々になじめるようにしている。ご家族と充分話して、ご本人の不安がないようにケースによっては、入居までの期間のアドバイス等もさせていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	努めている。入居者同士の関係やホーム内での役割をもつことを大切にしている。そういったことを、支援のサービス内容にとりいれている。ご本人から学んでいる、力になってもらっていることを、直接伝えていく		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、情報をいただいたり、スタッフや入居者と一緒に過ごす時間を大切にしている。そのご家族の状況に応じた関係を築いている ご家族は支援をするチームの大切な一員であると考えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	理解に努めている。それぞれの家族形態にあったベストな関係が継続できるよう努めている。支援計画におり込んであるケースもある		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ご自分で経営されていた飲食店に食事に行ったり、友人のいる場所に行ったり、これまでの生活暦や馴染みを中心にした支援計画にもとづき活動している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状況に応じ、スタッフと個別に対応したり、悩みをきいたり、時には入居者同士の関係をそっと見守るよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要であればきちんと関わっていく方針。契約が終了しても地域の方として、これまでの関わりを活かし、おつきあいできるような努める意向がある		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にまず聴いている。モニタリング、ケア会議の実施。その際に職員一人一人が入居者の立場になり「私が望んでいること」と考え検討するようにしている。書面にもこの記載がされている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント以外にも、気付いたことは都度、ご家族に確認して把握できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のモニタリングチェック表をつけている それをもとにケア会議をおこなって、変化や総合的な把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族はもちろんのこと、必要に応じ、医療関係者、用具の専門家、グループホーム以外の介護関係者等の意見を十分に聞き参考に介護計画書を作成している。計画書のサービス内容にこれら関係者との連携という項目も入っている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成している。変化に応じて見直しを実施している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングチェック表や、個別の生活記録に1日の様子を細かく記入し計画作成に活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービス外で、体験入所のサービス(食事代はいただいています)を実施している。面会時間の制限はありません。ご家族にお泊りいただくこともできます。(ご本人様と一緒に。食事代はいただきます)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	意向や必要性があれば、いつでも協力して支援する方針です。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在必要なケースがほとんどないと思うが、必要時には相談できるケアマネジャーや他サービスの情報がある		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	意向、必要性があれば対応する方針です		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時はご家族がかかりつけ医からきちんと、説明を受けられる場を設けている。かかりつけ医とは、メールなどのやりとりで、関係が築かれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニックからの定期往診があり、必要時にいつでも相談できるシステムになっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期往診により、ご本人やスタッフともなじみの関係を築けている また、事業所内に併設されているデイサービスの看護職員との連携もとれている。必要時には、可能な範囲で対応させていただいている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、必要時には介護サマリーを記入します。個人情報に留意しながら状況に応じ、早期退院、その後の対応について関係者と相談します。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、まずご家族に今後の医療や生活の意向を聞いている。その意向を医療機関に伝えている。リスク等の説明も充分説明した上でご本人、家族の納得を得られるよう対応をしている。スタッフにはその経緯と方針を周知している。その時の状況に合った対応をさせていただく旨の説明を入所時にしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要時にはかかりつけ医に相談、カンファレンス参加や意見を求めている。ご本人、ご家族の意向を十分汲み取りつつ、誠実に責任ある対応ができるよう、今できること、できないことを明確にしている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分に説明をする。介護サマリーを作成します。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録を目につく場所に置いておかない。他の入居者やご家族の情報を必要以上に伝えないなどの配慮をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個別計画に、自分の思いが訴えられることを目標の1つとし、傾聴や筆談、ご本人の世界観を大切にすることなどのサービス内容を取りいれているケースが多々ある。自己決定の表出ができる方には、直接確認している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の会話などから、ちょっとした外出をしたり、自室での食事なども希望があれば行っている。生活のリズムを保つようにはしているが、食事の仕方や時間の制限もしていない</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望がある方には、美容院の送迎や付添いをおこなっている。可能なかぎり、美容院には外に出かけていくようにしている。外出時に服を選んだり、化粧をすることを楽しんでいただけるようにしている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>負担にならぬよう注意しながら、それぞれその時にできる範囲でして頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>希望がある時は晩酌もしている。おやつを自分で購入している方もいる。体調等に問題がなければ、特に制限はしていない</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて、パターンや尿、便意サインを把握し、気持ちよく排泄できるようにしている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日湯を沸かし希望に応じ入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠リズムを把握し、日中の活動量の調整や昼寝などで夜間気持ちよく眠れるよう努めている。時には、夜起きて読書されたり自由に過ごされる方もいられます		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	英語の絵本をつくり朗読してもらい、読み物をそろえたり、日課をつくったり写真を撮ってもらい、宛名書きを依頼する、花の手入れなどその方の得意分野を中心にやることを提供している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は自己管理している。お金を持っていて安心な場合はご家族了解のもと、お財布に入れている。買物時のレジ清算をしていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課(状況にもよるが)にしている 歩行が厳しい場合はベランダや屋上にでたり、室内でも日の当たる場所や景色の良い場所へ移動する		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	主に行事として、様々な場所へ外出している。個別の買物や用足しに他の入居者と同行して外出の機会をつくっている。会社主体でのケア付き旅行に参加されるかたもいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をいつでも利用していただいている。TV電話(スカイプ)でアメリカにいるお孫さんと定期的にお話されるかたもいる。自室に電話回線をひき、ご家族と直接電話することもできます		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お部屋以外に、面会できるスペースがある。心地よく過ごせるようスタッフも配慮している。他の入居者と関わったり、又は水入らずの時間も大切にと考えている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない、という意識が浸透している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないもの、という意識が常識として浸透している		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	そっと見守り、所在の把握をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物を置かないのではなく、置くためにどうしたらよいか考えている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応のマニュアルがある。法人でリスクマネジメントの体制が整っており実施している。報告、対策を事業所、法人で共有して事故防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	伝達の形で行っている。日常的に会話で取り上げるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			まず入居者全員参加での防災訓練をおこないたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人らしく、いきいきと暮らす。そこにはリスクもあることなど、予測されるリスクについては、適時ご家族に説明している。入居相談時に必ず説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の記録、申し送りを密におこなっている。スタッフの視点のポイントがずれないように努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の仕分けや、往診の立会いに関わっている変更なども全員に伝わるシステムとなっているので、変化・注意すべき点も同時に周知される		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	まず飲食物で便秘が予防できるよう工夫している。兆候がでた時は密に申し送り、水分摂取などで調整できるようにしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援している。訪問歯科による口腔ケアや治療をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使っているが、有する能力によりチェックの度合いを変え対応している。変化には速やかに気づくよう努めている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある 医師等の指示も仰いでいる。時期的なものや、流行などは、情報を集め予防に努めている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	できている。賞味期限の徹底。流し調理器具の洗浄もその都度毎日管理している。消毒、手洗いの徹底。入居者にもご理解いただいている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木を植えている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、手作りの作品、入居者が選んだものなどを置くようにしている。光、音量、匂いは与える影響が大きいと考え、その都度配慮している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、椅子などのスペースがある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくこれまでの生活空間と同じ状況になるよう、持ち込み品やベッドの位置などもご家族に相談している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あえて非常階段を使って、下肢や感覚の訓練ができるようにすることもある。手すりや車椅子対応可能なトイレがある		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見守りや一緒に行う家事などしている。帰宅願望などは、家に帰りたい…という当たり前の意思を表現できることとしてとらえている。混乱の原因を追究している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで園芸している。ちょっとした野菜も収穫し、調理に取り入れている。屋上は、洗濯物を干したり、お茶を飲んだり、花火をみたり気分転換に利用している		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所から2年になります。皆様のお力をいただきながら、じょじょに スマイル住まいる三浦らしいスタイルができてきました。多少のリスクはあっても、いつまでもその方らしく、もてる力を発揮し、いきいきと、幸せに過ごされることを最優先に考え支援しています。駅から近く、新しい建物も自慢の一つですが、大切なのはやはり 人と人 ではないでしょうか？ 私（記入者）はここが好きです。機会がありましたら、ぜひ一度お立ちよりください。